

学校法人 加計学園 平成20年度事業報告 【岡山理科大学附属高等学校】

I. 事業の概要（総括）

入学者の減少に歯止めをかけ、生徒数を増加させるため、建学の理念の原点に立ち返って、これまで以上に、生徒・保護者・地域社会から信頼される学校づくりを推進しました。

具体的には

- 1) 生徒一人ひとりの学力を向上させ、満足のいく進路実現を保証。
- 2) 礼儀正しく、品位ある生徒を育成。
- 3) 教員の意識改革及び資質向上を図り、安心して子供の教育を任せられる学校であるとの評価を確立。

学力向上と進路実現のため、授業改善・学習支援に取り組むとともに、関連大学との実効性のある高大連携を推進し、関連大学への進学者の増加を目指しました。

品位ある生徒の育成のため、基本的な生活態度の確立（とくに挨拶の励行、身だしなみの指導、遅刻の防止、朝読書の実施）に努めました。

危機感をバネに、学校組織、学校運営を改革し、教職員の意識の活性化を図るため教職員研修にも力を入れ、教職員集団が、それぞれの持ち味を活かしながらチームワークを発揮し、充実した教育活動が実践できるように努めました。

信頼される学校づくりのため地域社会との交流の機会を増やし、それに加えて時代や社会のニーズに対応した科・コースの特色・魅力アップを実現するために学校評価を実施しました。

II. 学校の概要

1. 生徒の定員現員数

（平成20年5月1日現在）

課程・科		定員数		現員数			
		入学定員	収容定員	1年	2年	3年	合計
全	普通科	450	1,290	338	284	289	911
日	機械科	105	315	80	62	59	201
制	電気科	0	70	0	7	14	21
課	情報科	0	70	0	28	10	38
程	電気情報科	40	40	30			30
	計	595	1,785	448	381	372	1,201
通信制課程	(広域)普通科	600	600				352
合計		1,195	2,385	448	381	372	1,553

（単位：人）

2. 学年暦

	学年始休業	入学式	夏季休業	冬季休業	学年末休業	卒業証書授与式
岡山理科大学附属高等学校	4月1日 ～4月7日	4月9日	7月20日 ～8月31日	12月25日 ～1月7日	3月21日 ～3月31日	3月1日

Ⅲ. 各事業の概要

1. 教育活動の進捗状況

最近4、5年の志願者数減、入学者数減を受けて、抜本的な改革として、科・コースにおいては電気科・情報科の統廃合を行い電気情報科を設置、また普通科の中に生命動物コースの設置を行い、関連大学の特色ある学部・学科との連携・接続・進学をアピールしました。

高大連携については附属高校と大学との相互理解を更に深め、高大連携推進委員会を中心に進学理大コースだけでなく、全科・全コースにおいて具体的な取り組み方法を探り、高校、大学がお互いに持ち味の生かせる内容にまとめていく手段として、倉敷芸術科学大学と高大連携協定を締結しました。

工業においては活性化を図るため、各科とも趣向を凝らした「ものづくり」の内容を検討して、本校主催の物づくりコンテスト等を県下中高生を対象に行い、特色ある実験実習として理大教員による課題研究を実施しました。また生徒に対しては資格取得試験に積極的に挑戦させるよう指導を行いました。

通信制課程では今年度の特進クラス等の進学実績を基に、高校卒業資格の取得だけでなく、大学進学を目的とした進学に強い通信制課程をアピールしました。

また岡山シーガルズとのスポーツ交流協定に基づき中・高の女子バレー部の充実を図るため、練習環境を整えるべく、小体育館を新築しました。（竣工：平成21年1月31日）

特別進学コースや進学理大コース、普通コースにおいて、国公立大学をはじめとする進学実績を上げることがもとより、教科指導、生徒指導、進路指導において次の取り組みを実践して、生徒、保護者、地域社会に信頼される学校づくりに取り組みました。

教科指導においては、特に国語力向上を本校の学力増進の柱として、読書の時間（朝読）を設け、優れた文章を読むことによる生徒個人の間力向上を基盤に置き、生徒一人ひとりの能力に応じた「わかる授業」「魅力ある授業」を行い、全教科の学力向上を目指しました。

また 昨年度導入しました河合塾サテライト講座の活用を図ります。さらに科学オリンピック・SSH（スーパーサイエンスハイスクール）への申請を行いました。

生徒指導では、各教員が生徒一人ひとりの基本的な生活習慣の確立に努め、家庭との連絡を密にして、生徒、保護者の信頼を得られるよう日々努力してまいります。遅刻防止強化週間を休み明けに設け、生徒指導・保護者への啓蒙を行い遅刻者の減少を促進することにより、授業への導入をスムーズに行いました。

進路指導では、生徒一人ひとりの希望、適性に合ったきめ細やかな進路指導を行い、目標を持ち、毎日が充実した学校生活となるように努めました。

また、高大連携をはじめとする「校外学修科目」受講への参加を促し、幅広い視野にたった生徒の育成にも努め、関連校（倉敷芸術科学大学）との協定を増やしてまいりました。

工業においてはいままでの実習内容に工夫をするだけでなく、新たな実習への取り組み、「魅力ある実習」によって生徒の活力を増進するだけでなく、資格取得の奨励、検定試験指導を徹底することで、生徒にやる気と自信を持たせることに努め、基礎学力定着のための補習を実施しました。

《申請関係》

本校の特色である多数の関連校の存在を活用した科・コースの改善、新コース設置に向けて、検討し、体育コースを健康・スポーツコースに変更するとともに共学化することで届出をしました。

またSSH（スーパーサイエンスハイスクール）申請を行いました。採択されませんでした。しかしSPP（サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト）申請を行い、4件が採択されました。

通信制課程の教育区域追加、岡山市の政令指定都市化に伴う住所表記の変更を含む学則変更申請・届け出を行い認可・許可されました。

《人事・組織》

中高入試広報室を設置し、総長直轄機関である中高広報室と連携をとりながら、広報戦略の充実に図りました。

入学者数・卒業者数等は下表のとおりです。

入学者数一覧 (平成20年5月1日現在)

	入学者	留学生	
		留学生	社会人
全日制課程	448	0	0
通信制課程	163	0	

(単位：人)

卒業者数等一覧 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	卒業者	退学者	除籍者	休学者	留年者※
全日制課程	369	36	4	2	
通信制課程	135	20	5		

※ 修業年限を超えて在籍している生徒数 (単位：人)

2. 生徒の募集・広報

従来の入試広報部と中高入試広報室とが共同できめ細かい学校訪問、説明会の回数を増やし、従来の媒体および新規の広報媒体を使用して高校の紹介をしていきます。本校主催の、高校入試のための入試セミナーを実施し、また受験生の利便性を高めるとともに本校の受験率アップを図るべく、I期入試では、関連大学等の施設を入試会場に加えしました。

オープンスクールを2回実施、部活動紹介のオープンスクール、地区別説明会を実施しました。

3. 進学・就職活動状況

一昨年、昨年同様に早い時期からの進路目標確立のため、学年別・進路先別にガイダンス、講演会を計画、また各科・コースにおいても生徒、保護者対象に進路説明会を実施して、生徒の進路意識を高めると同時に生徒一人ひとりに適した進学・就職先を指導しました。

また、昨年同様に有名難関大学の指定校獲得のため、可能な限り大学訪問を行い、就職先ではより有名、優良企業の求人確保のため、企業訪問を実施しました。

4. 財務体質の強化

主な収入及び支出

(単位：千円)

年度 科目	19年度決算額	20年度決算額
学納金収入	852,024	803,470
補助金収入	423,656	413,848
その他収入	89,525	70,176
帰属収入合計	1,365,205	1,287,494
基本金組入額合計	△ 8,005	△ 17,498
消費収入の部合計	1,357,200	1,269,996
人件費	1,266,321	1,177,110
教育研究経費	247,219	231,459
管理経費	158,058	149,699
その他支出	65,499	65,458
消費支出の部合計	1,737,097	1,623,726

○収支改善対策の具体的取組と効果

機構の見直し、役職の任期制導入、人員削減などに努めました。

また、教育研究経費、管理経費においても、昨年同様、必要な経費を明確化して、最小限の支出に努めました。

《施設・設備》

現在の財務状況下での新規施設は非常に難しいと考えており、施設等が経年経過で補修等が必要な施設・設備が増えていますので、補修・改修に重点を置き施設の充実を図りました。

○支 出

- ・体育館新築（女子バレー）（194,670千円）完成
- ・東寮新館1階更衣室改装工事（1,950千円）完成